

みなさん、ジェンダーという言葉、聞いたことありますか？日本語で言うと、「社会的・文化的に形成された性別」ということです。

私たちは、ジェンダーを当たり前のこととして最近まで生活してきました。

それを平等にしよう、そのほうが男女ともに生きやすいんじゃないか、と取り組まれているのが、男女共同参画、ジェンダー・イクオリティです。

途上国の中には、女性の権利がまるで認められていない国もありますが、世界から見ると日本もまだまだ男女平等とはいえません。

今日は、大学院生のみなさんと男女共同参画について考えてみたいと思います。



信州大学のポジティブ・アクション

松岡 信州大学で男女共同参画の取り組みをしていることをご存じでしたか？

佐川 そういえば、工学部の女子トイレがきれいになりました！

松岡 すごくきれいにして、パウダールームもつきました。実は信州大学では、平成23年度から男女共同参画に取り組んできており、活動の成果の一つといえます。

一般の人は、大学は男女平等と思うようですが、意外とそうではありません。教員はほとんど男性ではないでしょうか。繊維学部はこの取組が始まるまで、女性教員が1人もいなかったんです。信州大学の中でも突出していました。

重森 確かに言われてみれば男の先生ばかりですね。でも最近、女性の先生がいます。

松岡 繊維学部は3人になりました。全員が外国人の先生で、まだまだ少ない状況です。理学部も少なくないですか？

黒雲 理学部の自分の学科は1人です。他の学科も1~2人だと思います。

松岡 理学部全体で4名だったと思います。信州大学は女性の先生が少ないのです。国立大学の女性教員比率ランキングで、信州大学は国立86大学中、60番台で総合大学では下位です。文科系の学部があると順位はもっと上位になるはずなので

すが、残念な結果でした。

全員 ええ〜！そうなんですか。

松岡 さすがに、これはまずいんじゃないか、ということで、文部科学省の女性研究者研究活動支援事業に応募し、資金をいただいて「女性研究者支援室」をつくりました。平成23年度から3年間、女性研究者の支援をしてきました。昨年からは本学の資金で運営するようになり、男女共同参画推進室という名称に変更し、より広く活動しているところです。

重森 まず何をしたのですか。

松岡 女性の先生を増やしました。どういうことをして増やし



研究者の卵たちと考える 私たちの男女共同参画



伊那キャンパス
(農学部)

総合工学系研究科 生物・食料科学専攻 D2

重森 駿(しげもり すぐる)

普段こんなことはあまり考えないので、みんな議論を交わすという貴重な機会を得られて有意義でした。男女共同参画という言葉が先走るのでなく、意味をみんなで共有して、みんな一緒に方向に進んでいけたらいいなと思います。

長野(工学)
キャンパス
(工学部)

理工学系研究科 電気電子工学専攻
(サステナブルコース) D1

佐川 美也子(さがわ みよこ)

私はこれから就職しますが、ポジティブ・アクションの背景などいろんな会社で見たいと思います。

松本キャンパス
(理学部)

理工学系研究科 地球生物園科学専攻 M2

黒雲 勇希(くろくも ゆうき)

最近、どうも女性が優遇されるようになってきて「女性ばかり」と思っていたんですが、日本の社会構造が男性に偏った特異な構造であることを学んで、ある程度のポジティブ・アクションが必要なんだということが分かりました。今後も続けていけば、社会の構造も変わっていくんじゃないかな。

松本キャンパス
(医学部医学科)

医学系研究科 医科学専攻 M1

中野 さくら(なかの さくら)

学部が違う人として話すことがあまりないので、いろいろ先輩方に話を聞いたのはよかったです。博士課程に女性が進むのは勇気がいると思うんですよ。私も迷っていたので、身近な人の話が聞いたのがすごくよかったです。

松本キャンパス
(医学部保健学科)

医学系研究科 保健学専攻 D1

山浦 洵(やまうら じゅん)

こういう機会がないと男女共同参画など考えないので、いい機会にめぐり合えました。

上田キャンパス
(繊維学部)

理工学系研究科 繊維・感性工学専攻
(博士課程教育リサーチプログラム) M2

設楽 稔那子(したら みなこ)

女性がんばっているところを私は身近で見に来たので、もっと活躍できる場面が増えていったらいいのかな、と思いました。





たと思いますか？

山浦 女性教員の募集をかける！

松岡 そうですね。これまでは公募したとき能力が同じだったら男性が採用されることが多かったと思います。男性は今まで得していたということです。信州大学は、この事業が始まってから、同じ能力だったら女性を採ります、と公募要領に宣言しています。

黒雲 男性としてはちょっと不利になるのかな、と思いますが、もともとは男性のほうが有利だったのが、少しは平等に近づくのかも。時代がそれを求めているなら仕方ないですね（笑）。

重森 社会や文化が作ったジェンダーを壊すのは、相当のことが必要だと思うので、ジェンダー・イクオリティを目指す上では必要なことなんじゃないかな。

松岡 そうですね。ものの見方や考え方、行動というのは、すぐには変わらない。変えていこうとしたら百年以上かかってしまう。そこで積極的に改善する行動をしていこうということでポジティブ・アクションがとられています。女性の先生を増やす最大の特効薬は、女性だけの公募をすること。これは本学だけじゃなく、文部科学省の補助金を得た大学の多くが実施しています。

黒雲 男性への逆差別にはならないんですね。

松岡 女性の割合が相当程度（4割以下）少なく、男女間に事実上生じている格差を解消する目的であれば、男女雇用機

会均等法に違反しません。この事業を始めた平成23年当時、女性の先生は11.9%と非常に少なかったです。4年かかってようやく15.2%までできましたが、更なるポジティブ・アクションが必要です。

重森 まだまだですよ。

松岡 平成27年8月に女性活躍推進法が成立しました。10年間の時限立法で、従業員301人以上の企業は、平成28年4月に行動計画を公表しなければなりません。「女性教員は何%で何人にします」、「女性管理職を何%にする」というように、かなり強引にやっっていかなないと変わらないというのが、日本の状況です。

こうした法律もできているので、男女が手を取り合って、お互いに切磋琢磨し協力して、女性の活躍を推進していくということが、今後とても大事になるのかな、と思います。

これから感じるジェンダー・バイアス

松岡 みなさんが日常的に感じるジェンダー・バイアスがありますか？

中野 あんまり感じたことがないですね。

佐川 工学部に7年もいると、なんだか慣れますが、最初は女子が極端に少ないことが変だと感じていたと思います。今は何

も思わなくなりました。逆に、先生方も女子にはちょっと優しいかも。そしてトイレは絶対に混まないです。あまりマイナスは感じていません。

松岡 では、このままの社会でいい？そもそも、なぜ工学部へ女子が行かないのでしょうか。

佐川 学科100人で私の学年では女子3人ですからね。高校の時の理系クラスは3分の1くらいが女子だったので、そのくらいはいるかな、と思っていたのですが……。

松岡 疑問に思わなかった？

佐川 高校の時、物理や数学は男性の先生が多くて、そういうイメージがついちゃってるところもあります。やっぱり高校で女性の先生の数が増えていかないとダメなのかもしれませんね。

設楽 私は女子校だったので半分くらいは女性教員でした。繊維学部は、工学系・化学系・生物系に分かれていて、私は工学系で女子が少ないほうですが、それでも100に対して20人はいました。私の所属している感性工学というところは、女子が集まりやすいところで25%くらいです。

松岡 繊維学部は女性教員は少ないけど女子学生は多いんですね。

設楽 女性からしか取れないデータというものもあるんです。「女性のための……」という商品も多いし、現代は女性がお財布を握っていることが多いので、女性がいいと思う商品が売れる傾向にあります。そこで、「女子の学生にやってほしい実験」などもあります。

松岡 男子はどうですか。

山浦 どこにバイアスがかかっているか、ほとんど意識したことがないですね。



松岡 これまで男性優位の社会だったから感じにくい面もあると思いますが、「女子がかわいそう」とか、逆に「力仕事の時になんで男子ばかりが呼ばれるんだろう」と感じたことは



ないですか？

中野 私は、中学高校と女子校なんですが、受験の時に、男子のほうが理系科目は強いから、女子は努力しないと理系の受験はキツイと言われ続けてきました。

松岡 男女では脳の構造が違うぞ、というふうには？

中野 そうですね。でも現在は、全然そう思っていない。別に男子のほうが数学が強いかっていうとそうでもない。女子校ならではの偏った考え方だったかもしれません。

重森 私は、中学高校が男子校だったので、大学に来て、逆に男女一緒にいることがカルチャー・ショックでした。しかも、寮生活だったので、まさに男子しかいない環境でした。

松岡 中学生から男子ばかりで、女子とは話したこともない？

重森 目を合わせるだけで恥ずかしい、みたいなのはありましたが、大学に来たらみなさん大人で、不平等を感じることはあまりないですね。

松岡 みなさんはまだ学生で不平等は感じていないようですが、研究者になりたい、続けたい、というときにはジェンダー・バイアスを感じることもあると思います。本学では女性限定公募をしたり、女性の先生が出産・子育てなどの時には補助者をつけることができるようにしたりしています。院生の方々にお金を支払って、データ整理とか実験補助してもらえる制度で、大変好評です。

子育ては、どうしても女性の仕事になってしまいます。だから、結婚はするけど、子どもは産めない、と思っている女性研究者がたくさんいます。子どもが病気になると思まざるをえず、実験などでは周りに迷惑がかかってしまう。子育て中は論文をかけない時もあり、最低限勤めて講義をするだけでいっぱい。それもできないかもしれないと、女性の研究者たちはビクビクしてきました。

それを、みなさんのような院生がサポートしてくれれば仕事もはかどるし、保育園のお迎えにも間に合う。そういう支援を



しています。妻がフルタイム勤務の場合は男性研究者でもOKということで、その制度を使っている方もいます。最近では女性研究者を支援する国の制度[※]が整いつつあります。

学校教育では、男女は比較的平等になっていますが、就職はどうなのでしょう。基本的に、まだ社会はあまり平等ではありません。男女の能力差はないのに、日本の大学にこれだけ女性が少ないのは、どう見ても不自然です。

多様性がキーワード

松岡 グローバル・ジェンダー・ギャップ・インデックスというデータがあります。毎年発表されているものですが、日本は2015年のデータでは145カ国中101位。先進国では最下位で、ジェンダー・ギャップが大きい国ということです。

中野 子育てをしながら現在の研究スケジュールをこなすのは、確実に無理だと思います。朝早く行って実験して、夜遅くまでデータ整理して、土日も時間がある時は大学に来ないとならない……。研究の進歩もすごく早いので、子育てで中断されると自分だけが取り残されるみたいですごく不安です。

松岡 よくわかります。日本は人口が減少しています。日本の研究力を考えた時に、男性だけでは世界のトップを維持していけない。日本の活力維持のためには、最大の潜在能力である女性の能力を活用していくことが重要なんです。

山浦 確かに研究などチームでやっていて行き詰まった時、女性がいると女性ならではの意見を言ってくれて、突破口になることがあります。考え方に多様性が生まれてスムーズに進んでいくことがあるので、女性の研究者が増えてほしいですね。

松岡 そうですね。「多様性」が男女共同参画のキーワードになっています。多様な意見が新たな創造力を生んでいく。男性だけより女性がいたほうがいい成果が出る。その点、男子校、

女子校はどうですか？

設楽 共学校にはない良いところもあると思います。集中する時のみんなの波が同じというか、今は勉強に集中するけど、今は行事に集中する、とか。

松岡 同質の人だけとなると当然、意思疎通は早いけれど、そこに違う風を入れて全く違うやり方をするという発想が出てきにくいですね。

設楽 確かに、女性だけだと感情的になっちゃって落ち込んでしまうことがあるのですが、男性が「こうやってみれば」と言ってくれてポンと動けるといこともありますね。

松岡 同質な集団はまとまりやすいし、気持ちも落ち着いているんだけど、突破力がない。異質な者が混じった集団の方が壁を越えられるということですね。

設楽 日本という国も、同質が多いので、壁を乗り越える力は弱いのもかもしれませんね。

「らしさ」ってなに？

重森 自分はもう結婚して1年半ぐらいになります。まだ子どもはなくて、妻は働いています。自分はけっこうだらしなくて、家事は妻にやってもらっていることが多いですね。



松岡 子どもができた時にどう協力するかですよ。どんな心構えですか。

重森 研究者になりたいという自分の好きな道を歩くことを理解してもらっているので、そうになったら協力しようという気持ちではありますが、研究者って帰りが遅いし、どこまでできるのか……。

松岡 研究者は大変ですよ。なかなか職はないし。

重森 あはは…。移住も確実にありますよね。

松岡 どこの公募に出すかにもよるけど、選んでいたらなか



なかポストはないので、若いときはどこでも行く覚悟でやらないと。

重森 そうですね。妻もいっしょに移動してくれるといいなと思っています。

松岡 それではパートナーの就職はもっと大変ですね。

重森 そうですね。でも私は、2人が話し合っ決めてたならいいんじゃないかと思います。本心で嫌なら考えないといけませんね。

松岡 そこですね。ほんとに思いやっあげるのが夫婦円満の秘訣だから。

重森 世界の視点から広く見るということも大切ですが、それ以前に、パートナーや研究室の仲間と、その人らしさを尊重して考えていくことも大事なんじゃないか、と思います。

松岡 それはすごく大事ですよ。これまで女性のほうがやりたいことができなくて、発言もなかなかできないということがありましたから。「らしさ」といっても、自分が気がついていない「とらわれ」がありますね。

重森 そうですね。

松岡 そこをもう一歩解放できれば、もっと「らしさ」が花開くかもしれませんよ。

「年齢の壁」を超えて博士課程へ

設楽 私は博士課程教育リーディングプログラムをとっています。

松岡 学費が免除されているんですね。

設楽 このプログラムの目的は、民間企業に就職する、ということなんです。私のコースは女子が多く、ほとんどが研究者になりたがっている。それが問題です。

松岡 まだ女性の研究者は少ないんですけどね。

設楽 私は、女性研究者は必要だと思っています。でも、自分の母親や、周りの先生方を見ていて、女性が仕事と家庭を両立するのは大変なのかなあ、と思います。どうなっていくんだろう、と不安です。

松岡 不安にさせてはいけないんですけど、現実を考えると不安にならざるをえないですね。だとしたら、その状況になったとき、自分が能力を活かしていけるように、制度や、みんなの考え方が変わっていればやりやすいですよ。

設楽 企業のほうも変わってきているそうですね。

松岡 大手はワーク・ライフ・バランスに力を入れています。今までは男性の働き蜂が職業人のモデルでした。残業すると「偉いね」って言われる。でも、現在は、長時間仕事をしていて帰

※ 日本学術振興会特別研究員は育児休業が取れる。また、RPDという博士学位取得者の出産・育児による研究中断を支援する制度がある。

らないのは能率が悪い、仕事ができない、と評価が変化してきています。仕事と家庭のバランスを上手に管理して、ワークとライフの相乗効果が生まれることを目指しています。この考え方がもうちょっと加速すれば、もっと多くの女性が働いていられるかな、と思います。

設楽 できれば研究をやめたくない……。

松岡 絶対やめたくないでしょう。ここまでやってきたんだから。これでやめて専業主婦になったらもったいないですよ。

設楽 これまでの努力はなんだったんだろうって思います。



松岡 そうよね。これまでの女性は「なんだったんだろう」で終わってしまう人も多い。

黒雲 私も、少なくとも博士課程に進むので、その後もやってきたことを活かしていきたいと思います。

松岡 ずっと研究者を目指していくぞ！結婚もするぞ！

黒雲 はい、まあ。結婚は……むずかしいかもしれないけど。

松岡 未婚率は増加傾向にあり、女性より男性のほうが未婚率が高いです。日本の場合、未婚率が高いと子どもが少なくなる。女性が絶対嫌いというのであれば、結婚してもらったほうがいいかな、と思いますけど。研究室は女子もいるんですか。

黒雲 女子が半分ですかね。

松岡 研究室では男子の先輩のほうが就職に有利なんですか？

黒雲 特にはないですよ。でも、進学する人は男子ばかりですね。けっこうフィールドに行ったりするので女子にはハードなんでしょうかね。

松岡 信州大学の場合、学部生は繊維学部も農学部も女子が多いのに、大学院になると急に少なくなって、マスター（修士課程）はまだいても、ドクター（博士課程）になるとほとんど女子がいないんです。どうしたら女子がドクターにまでいけるか、良い案がありませんか。

設楽 ドクターを出ると27～28歳になっちゃうので、結婚出産を考えると躊躇してしまいますよね。

松岡 年齢の壁ですか。

設楽 だから逆に私と同じコースに所属している子は結婚なんか別にいいっていう感じ。

松岡 二者択一で、両方は無理よね、っていうこと。男子はどうですか。

重森 普通に就職するよりもドクターのほうが収入も少ないし……。ドクターに行くとだんだん仲間も減ってくるなかで、パートナーがいると心の支えになります。

松岡 子どもが生まれたときには育児休業を取りたいですか。日本では育児休業を取る男性が少ないけれど、ノルウェーでは100%に近いくらいなんです。日本は、取りたい男性はいるけど周りに迷惑がかかるからといって休まない。ぜひ、男女共同参画のリーディングモデルになってほしいですね。

意外と深い学部と院の溝

山浦 医学部保健学科は、大学院に進む人が少なく、国家資格をとったら外の病院に就職してしまいます。女性は結婚・出産があるので特に少ないです。学部では男女半々ぐらいなのに、大学院は40名のうち女子は3名しかいません。

松岡 女子に進学してほしいのに。

山浦 僕もそう思います。

松岡 どうしたらいいんでしょう。

山浦 僕らみたいな大学院生がうまく魅力を伝えてないことが



問題です。女子もどんどんきてほしい。女子がいると多様性が出るし、女子ならではの考えはすごいと思うことが何回もあるんで、なんとか魅力を伝えていけたらと思います。

松岡 院生と学部生の溝みたいなのがあって、よっぽどじゃないと進学しない。特に女子の場合は親御さんが反対するケースもあります。「そんなに学歴つけたらお嫁にいけない」って。

その辺をどう変えていって、大学院に入ってもらおうか。積極的に取り組んでいこうと思います。

設楽 先生たちが勧誘すると効果が大きいですね。先輩に相談して大学院に入学した人もいます。

松岡 医学部はどうですか。

中野 医学部の医科学専攻は、医学部以外のいろいろな学部を出てから医学部で研究したいという人が多いので、医学科出身者はほとんどいません。私は農学部卒です。

松岡 それで食品系なのですね。

中野 説明会がたくさんあるし、開かれた感じで、なんのためらいもなく入ってしまいました。農学部では人の採血ができないんですが、医学部ならでき、研究が続けられます。

松岡 ドクターに進むのですか？

中野 けっこう大変なので、考えてないわけではない、という感じですかね。

松岡 研究がうまくいったら、将来は信州大学の教授になってくれればいいんですけど。

中野 あはははは……。

松岡 工学部はどうですか。

